



おの先生の ブレイクタイム vol.2

～ スイスの記憶 ～ (全3話)

チューリッヒの街は鉄道の駅の南に広がっていた記憶があります。街のシヨールウィンドウに銃弾の跡がそこそこあり、日本とは違うんだなと子供ながらに思った記憶があります。

父親がどんな理由でスイスに家族を連れて来たか詳細は知らないけれど、抗生物質の研究の為なんだろうなどは漠然と分かっています。会社の派遣、今という駐在員とは違い、大学などの研究、いわゆる留学だったでしょうから、経済的にも大変だったんじゃないかな。

土を色々な場所から採取し、その結果からヒントを得て、抗生物質を作る、いわゆる土壌採取は我が家の当たり前になっていました。ですので、あらゆる場所に出掛けては、家族みんなで土を持って帰った記憶があります。

今の私とは違い、帰国後、父親は当時の薬剤の特許関係の雑誌の報告にピリピリして、自分達が扱かれるとやたらと悔しがついていた記憶があります。当時の自分には全く分からなかったけれど、そういう特許などの競争は当たり前の時代だったんでしょうね、今もそうだろうけれど。

スイス時代に戻します。そんな経済的にも余裕がない環境でも子供はオモチャを欲しがるもので、その一つが鉄道模型でした。



大砲に妹と乗り
パンパン

母親に買ってもらった
LEGO



父親も一緒になって遊んでいたのも、本格的なリマというメーカーの鉄道模型も持っていました。ほとんど親が楽しむレベルの物でした。今は壊れて動かないけれど、数台は診察室に飾っています。

あと忘れられないのがLEGOで出来た鉄道模型です。当院の内覧会のチラシにも書きましたが、この模型はチューリッヒのデパートで母親が買ってくれたもので、デパートの店員さんに馬鹿にされ、半ばヤケクソで購入した高額なおモチャでした。店員さんは、このLEGO、高いわよ、日本人のあなたに買えるかしら？と言ったそうです。腹が立ち、有り金をはたいて買ったと聞いています。これまた、写真の通り壊れて使い物にはなりません。何十年経った今でも私の手元にあります。

話は少し逸れますが、当院の待合室には大型の鉄道模型が走っています。私のクリニックの内装はこの鉄道ありきでした。それは、このスイスでの模型での遊び体験とリンクしていて、自分が楽しかった事を再現し、多くの子供達に見せてあげたかったからです。

世の中には多くのオモチャが溢れていて、良いものからイマイチなものまで様々ですね。概して子供はイマイチなおモチャを欲しがりますが、何か一つくらいは大人になっても記憶に残る物を買って与えたいなと思っています。

つづく

この続きは6月9日発行の
まよたん7月号で!

過去のバックナンバーはHPにて掲載中!

おの小児科

(代表)

☎072-773-6125

伊丹市野間3丁目1-21
(伊丹野間郵便局の南隣)

無料駐車場 22台完備



おの小児科

検索



おの小児科
院長 小野 英一 先生

TREND

ご入園、ご入学、おめでとうございます。
みんな、少しは慣れたかな?
集団生活になるとどうしても風邪などの病気をもらいやすくなりますね。
些細な事でも構いませんので、困った時にはお越し下さい。